

BAU 2025

ファイナルレポート

国際建築・建材・建築システム専門見本市
2025年1月13日～17日
メッセ・ミュンヘン

2025年1月17日

BAU は業界の未来に革新的洞察をもたらす

- 強力な国際的存在感で世界をリードする見本市としての地位が明確に
- 厳しい経済環境下で強みを発揮、建設業界から高い信頼
- 出展者と来場者から最高評価



Facts & Data

会期	2025年1月13日(月)～17日(金) 9時30分～18時
会場	メッセ・ミュンヘン
主催	メッセ・ミュンヘン(Messe München GmbH)
規模	全19ホール 200,000㎡
出展社数	58カ国から2,230社(2023年度:49カ国から2,260社)
来場者数	180,000人(2023年度:190,000人)
主な出展品	素材(亜鉛、アルミ、石<天然・人造>、ガラス、スチール・ハイグレードスチール、セラミックス、土、銅、プラスチック、木材)、化学建材(漆喰、絶縁材、接着剤、塗料、ニス、防熱・防寒・防火・防音材)、軽石、ファイバーセメント、コンクリート・多孔質コンクリート、タイル、瓦、レンガ、ケイ灰レンガ、エレベータ、エスカレータ、階段、屋根材、屋根窓、床仕上げ材、鍵、シリンダ、門、ドア、ドア枠、窓、シャッター、ブラインド、セキュリティ・侵入監視システム、ゲート・駐車システム、ゲート・ドア駆動技術、出入管理システム、エネルギー・ソーラー技術、太陽光発電、遮光・ファサードシステム、空調・換気技術、ガラス・プレハブ・木造建築、ビルディングオートメーション、アウトドアデザイン、空間コンセプト、建築関連ソフトウェア・コンピュータソリューション、サービス、業界誌
出展日本企業	石川技研工業(株)、オプテックス(株)、工機ホールディングス(株)、セイコーエプソン(株)、大建工業(株)、(株)鶴見製作所、(株)マキタ、三菱ケミカル(株) ほか
専用URL	www.bau-muenchen.com (英語/ドイツ語)

建設業界が大きな課題と不確実性に直面している中、建築・建材・建築システムに関する世界有数の見本市である BAU は、業界にとって希望の光となっている。

1 月 13 日から 17 日まで開催されたメッセ・ミュンヘン見本市会場には、開催期間が 1 日短縮されたにもかかわらず、来場者は 18 万人(2023 年:19 万人)を超え、58 カ国(2023 年:49 カ国)からの出展者 2,230 社(2023 年:2,260 社)が紹介するイノベーションとトレンドを調査した。参加国数に留まらず、出展者における外国企業数の割合も 52%と過去最高を記録した。

メッセ・ミュンヘンの CEO ラインハルト・ファイファーは、BAU 2025 を振り返って、「当初、厳しい経済環境によって BAU 2025 への期待は抑えられていた。しかし、出展者と来場者の双方からの反応は、明らかに前向きなものであった。BAU は、特にこのような時期にあつてこそ、勇気と自信を与えてくれる」と述べている。

BAU のアドバイザリーボード会長の Dieter Schaefer 氏も、「BAU 2025 は建設業界に強いシグナルを送った。建設業界は、今は困難な状況にありながらも、革新、変革、推進力を通して、将来的にも必ずや進展していく。この見本市は、持続可能な成長と発展に不可欠な業界交流を強化させている。私たちは、明日の建設業界を共に形成していきたい」と、非常に満足して語っている。



BAU は、建設業界に自らの耐久力を実感させて自信を持たせる

ドイツ建設産業中央会(ZDB)のマネージングディレクターFelix Pakleppa氏は、業界をリードするイベントとしてのBAUの役割を再確認して、「BAU 2025は、変革、未来の住宅、資源と気候保護という重要なテーマを掲げ、建築の未来に向けた先駆的なアイデアを改めて提供している。BAU 2025は、メーカーとプランナー、そして建設業界が一体となって、今後とも力強く前進していくための不可欠なプラットフォームだと考えている」と述べている。

BAU 2025 は、「持続可能で気候に配慮した建設」、「都市／田舎／都市地区の変革」、「資源効率」、「モジュール式、連続式、生産性」、「費用対効果の高い建設」という主要なトピックに焦点を当てた。

連邦建築家会議所会長の Andrea Gebhard 氏は、これらのトピックは業界の現在の精神をよく表しているとして、「今年の BAU は、持続可能性がもはや単なる目標ではなく、私たちの行動の指針であることを示している。革新的な建築材料やデジタル計画プロセスから都市空間の統合的なアプローチにわたって紹介されたソリューションの多様性とクオリティは印象的であり、社会を形成する上での重要性を考えれば、今後とも連邦政府の強力な支援が必要である」と述べている。



BAU エキシビジョン・ディレクターの Matthias Strauss 氏は、「業界が厳しい状況に置かれている中、我々は力を合わせて BAU 2025 を成功に導くことができた。共に頑張ってきた皆さんに感謝したい」と、チームの優れた事業遂行に謝意を表した。

外国企業出展者のシェアが 50%超

60 年以上の歴史の中で初めて、外国企業が出展者全体の半数以上を占めた。全出展者 2,230 社のうち 52%がドイツ国外に拠点を置く企業である。



BAU 2025 への出展者の中で、参加者数上位の国は、ドイツのほか、イタリア、中国、トルコ、オーストリア、ポーランド、ベルギー、スイス、スペイン、オランダ、ギリシャである。

一方、来場者については、2023 年からの回復傾向が継続し、国外からの来場者数は高いレベルに達した。参加率においても同様に、国外からの来場者数割合は、前回の 40% から、今年は 44% に増加した。来場者数上位の国には、ドイツのほか、オーストリア、イタリア、スイス、ポーランド、トルコ、中国、ルーマニア、チェコ共和国、スペイン、クロアチアが挙げられる。

出展者と来場者の双方から最高の評価

BAU 2025 の成功は、Gelszus 市場研究所が実施した調査にも反映されている。出展者の 95% が見本市として「良い」もしくは「優れている」と評価し、91% が見本市としての適格性に優れると答えている。そして、出展者の 94% が見本市としてのクオリティに、そして、91% が来場者の国際性に最高点を付けている。

一方、来場者にあっても、回答の 97% が見本市として「良い」もしくは「素晴らしい」と評価するなど、今回も BAU 2025 を最高に評価している。

併催プログラムとしての特別ショーと授賞式

5 つの主要トピックは、展示エリアだけでなく、専門家によるフォーラムや特別ショーでも紹介された。さらに、「建築の未来」フォーラムにおいて、Carlo Ratti 氏、大橋 諭氏、Verena von Beckerath 氏、Elisabeth Endres 氏といった著名な建築家が講演した。

建設業界の革新力は授賞式でも明らかであった。「Built on IT – building professions with a future」賞、the Balthasar Neumann Prize 賞、the BAKA 賞などのコンペティションがミュンヘンで開催され、それぞれ優秀者に賞が授与された。

また、スタートアップ企業を対象とするコンペの Founders Fight Night が初開催された。そのコンペの勝敗は、各企業がボクシング・リング上で自社製品を披露した際の観客の拍手の大きさに決めるという独特な方法がとられたことを紹介しておきたい。



次回の BAU は、2027 年 1 月 11 日から 15 日まで、ドイツ・ミュンヘン見本市会場で開催される。

また、それに先立って、digital BAU が 2026 年 3 月 24 日から 26 日まで、ケルンで開催される予定であり、建設ソフトウェア分野のソリューションと製品を紹介する。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.bau-muenchen.com まで

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先：

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 e-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)